

京都・平安京左京九条三坊十四町

- 1 所在地 京都市南区東九条烏丸町
- 2 調査期間 一九八四年（昭59）八月～一〇月
- 3 発掘機関 財京都市埋蔵文化財研究所

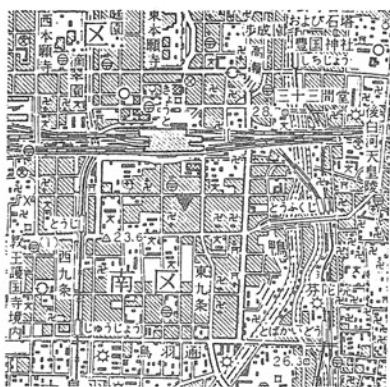
- 4 調査担当者 小森俊寛

- 5 遺跡の種類 都城跡

- 6 遺跡の年代 平安時代～鎌倉時代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平安京左京九条三坊十四町は、国鉄京都駅八条口から南へ約三〇〇～四〇〇mの烏丸通ぞいの東側付近に位置する。平安京の街路では、西側を烏丸小路、北側を九条坊門小路、東側を東洞院大路、南側を信濃小路により区画された一町である。同町及びその南側の三坊十三町の二町は、文献資料によれば平安時代後期には、藤原信長の二町の邸宅地と推定されている。京都



（京都西南部）

駅八条口から伏見区竹田まで地下鉄烏丸線の南進工事が計画され、その予定路線のうち平安京城と重なる区間を対象に、一九八三年度から一九八五年度にかけて、京都市埋蔵文化財研究所が事前の発掘調査を実施した。報告する木簡は、一九八四年度に実施した一連のトレンチ調査の内、No.84トレンチと名づけた調査地から出土した。No.84トレンチ調査地は、左京九条三坊十四町西端北辺部と、それ沿いに南北に走る烏丸小路東側溝推定地を含む。

発掘調査の結果No.84トレンチにおいては、平安時代後期から鎌倉時代前半代の間につくりなおされては埋没し、相互に切り合い関係にある烏丸小路東側溝を計三条（SD1～3）、及び宅地内側では、ビット、土壙など側溝群と対応する時期の遺構を多数検出した。木簡は、烏丸小路東側溝のうち最も新しい鎌倉時代前半代に埋没してその機能が失われたと見ている側溝（SD1）から出土した。共存遺物には、土師器皿、瓦器碗、須恵質土器鉢・甕片などの土器類及び打球・板片など木製遺物類などがある。なお他の遺構からは、象牙製の骰子など特殊な遺物も出土している。

8 木簡の積文・内容

- (1) 大進殿ほしい取

斗しほ
斗仁安二年三十

98×26×3 032

（小森俊寛）